

自己点検・評価シート

整理No.	2-(1)-②	平成25年度 第9次鳥取市総合計画
事務事業名	図書館情報管理システム処理事業	所属名 教育委員会事務局 中央図書館

1. 基本情報

総合計画の位置づけ	体系区分	コード	名称
	まちづくりの目標	20	心豊かにいきいきと 人が輝くまちづくり
	政策	01	個性を活かし、活躍できる環境をつくる
	施策	2101	生涯学習の推進

2. 事業目的【PLAN】

対象 (何を、誰を)	図書館3館及び中央公民館図書室6室の利用者情報、所蔵資料に関する情報、予約・貸出状況等の管理
意図 (どのような状態にするために)	図書館利用者情報などを適正に管理することで、市民に迅速、正確、公平な図書館サービスを提供し、利便性・効率性・経済性の向上を図る。
手段 (どうするのか)	平成24年度に更新した図書館情報管理システムを適正に運用し、利用者情報、所蔵資料情報等の管理を行い、利用者自身がインターネットから本の予約、予約状況の確認、貸出の延長などを行えるようにするとともに、予約した本が正確・迅速に利用者へ貸出せるようにする。また、本の自動貸出機、自動返却機の運用により、利用者の利便性の向上を図る。

3. 事業の年度別計画・実績【PLAN・DO】

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
内容	年度別計画	H24年度11月の全面改修に向けて、システムの検証と構築を検討する。	新システムを導入して、利用の拡充拡大を図る。	新システムの効果的な運用により、一層の利便性強化、利用の拡充拡大を図る。	新システムの効果的な運用により、一層の利便性強化、利用の拡充拡大を図る。	新システムの効果的な運用により、一層の利便性強化、利用の拡充拡大を図る。	
	年度別実績	H24年度2月の全面改修に向けて、システムの検証と構築を検討する。公募型プロポーザル方式により調達することとする	公募型プロポーザル方式により新システムを構築し、経費を抑えながらより高機能のシステムに更新し、利便性の強化を図った。	新システムの効果的な運用により、利用者の利便性の向上と業務の効率化を図った。			
事業費	区分	決算額(千円)	決算額(千円)	決算額(千円)	予算額(千円)	計画額(千円)	
	事業費(A+B)	12,510	13,607	31,732	29,487		
	直接経費 A	8,760	9,894	28,089	29,487		
	直接経費の財源内訳	国・県	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	
一般財源	8,760	9,894	28,089	29,487			
人件費 B	3,750	3,713	3,643				
職員数の内訳	正規職員	0.50	0.50	0.50			
	嘱託職員	0.00	0.00	0.00			
	臨時職員	0.00	0.00	0.00			

4. 平成25年度の事務事業実施概要【DO】

事務事業の実施概要	<p>1 事業の概要 中央図書館を中心にして、図書館3館及び中央公民館図書室6室の全ての図書、利用者、貸出情報を一元管理して運用する。 平成18年度に9館の図書館電算システムを統合したが、機器類の老朽化やソフト保守対象期間外となる24年度に、プロポーザル方式により業者選定を行いシステムを更新した。 平成25年度から新システムを運用。</p> <p>2 事業の成果 図書館3館及び中央公民館図書室6室を新図書館システムで運用することにより、迅速で多彩な図書館サービスの提供を行うことができた。主な機能としては、資料管理、利用者管理、貸出管理、予約管理、搬送管理、発注管理、Web管理などが一元化されている。</p> <p>①市民の図書館利用の利便性向上(一元管理) ②図書、利用者、貸出管理及び図書購入整備の効率性向上 ③地域間格差の是正 ④利用者によるインターネットでの検索、予約受付、貸出延長などのサービス提供</p> <p>(25年度実績)</p> <table border="0"> <tr> <td>蔵書冊数</td> <td>614,625冊</td> <td>利用者登録数</td> <td>56,731人</td> </tr> <tr> <td>個人貸出</td> <td>899,132冊</td> <td>団体貸出</td> <td>123,080冊</td> </tr> <tr> <td>予約受付</td> <td>134,620件</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	蔵書冊数	614,625冊	利用者登録数	56,731人	個人貸出	899,132冊	団体貸出	123,080冊	予約受付	134,620件		
蔵書冊数	614,625冊	利用者登録数	56,731人										
個人貸出	899,132冊	団体貸出	123,080冊										
予約受付	134,620件												

5. 資源を投入することで実施した活動の大きさを表す指標【PLAN・D * 目的に対する成果がわかりやすい指標に変更しました】

		指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
活動指標	1	図書館情報管理システム登録者数	人	目標	54,000	57,000				
				実績	65,849	54,687				
	(指標の説明) 情報管理システム処理件数									
	2	図書館情報管理システムによる本の貸し出し冊数	冊	目標	883,000	900,000				
				実績	900,563	868,001				
	(指標の説明) 情報管理システム処理件数									
	3	セルフ利用率の拡大	%	目標			40	46	47	
				実績			45			
	(指標の説明) 情報管理システム処理件数(貸出返却セルフ利用冊数/総貸出返却処理冊数)									
	4	個人貸出冊数	冊	目標			900,000	910,000	920,000	
				実績			899,132			
	(指標の説明) 図書館情報管理システムによる本の個人貸出冊数									

6. 活動指標の達成率【CHECK】

		指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標達成率	3	セルフ利用率の拡大	%			112.5%		
	4	個人貸出冊数	%			99.9%		

7. 評価【CHECK】

評価項目と評価の視点	評価内容	評価理由
目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 妥当である <input type="checkbox"/> 2. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> 3. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> 4. 妥当ではない	図書館の管理運営及びシステム運用は、公平な資料整備や資料提供に加え、多くの個人情報扱うため設置する市が直接運用することが望まれる。また、サービス改善に伴うシステム修正も効率よく実施できる。
事業の有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 有効である <input type="checkbox"/> 2. やや有効である <input type="checkbox"/> 3. あまり有効でない <input type="checkbox"/> 4. 有効でない	図書館システムは、現代の図書館の管理運営に際して欠かせないものであり、資料管理、利用者管理等大いに効率化が図られているため。
資源投入の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 効率的である <input type="checkbox"/> 2. やや効率的である <input type="checkbox"/> 3. あまり効率的ではない <input type="checkbox"/> 4. 効率的ではない	資料の登録管理、利用者の管理、貸出等の利用管理などにおいて大いに効率化が図られており、費用対効果は高い。
サービスの公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 公平である <input type="checkbox"/> 2. やや公平である <input type="checkbox"/> 3. あまり公平ではない <input type="checkbox"/> 4. 公平ではない	搬送のサービス網により、資料を届ける仕組みがあるため、どの図書館、図書室からでも同様のサービスを受けることができ、地域間格差の解消につながるシステムである。

8. 事業の成果を踏まえた今後の方向性【ACTION】

今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 拡充 <input type="checkbox"/> 2. 改善継続 <input type="checkbox"/> 3. 現状維持 <input type="checkbox"/> 4. 縮小 <input type="checkbox"/> 5. 休止、廃止、終了	<input checked="" type="checkbox"/> (1) 意図的に拡充 <input type="checkbox"/> (1) 手段等の改善 <input type="checkbox"/> (1) 意図的に縮小 <input type="checkbox"/> (1) 臨年実施等、意図的に休止	<input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然増加 <input type="checkbox"/> (2) 効率化・簡素化 <input type="checkbox"/> (2) 制度的に自然減少 <input type="checkbox"/> (2) 意図的に廃止	<input type="checkbox"/> (3) 他事業との統合 <input type="checkbox"/> (3) 制度的に終了
担当課等の評価コメント	平成24年度にプロポーザル方式により更新したシステムにより多くの改善を図った。平成25年度はシステムを効率的に運用し、利用者にも職員にも利便性の高いサービスが提供できたと実感した。今後も、毎年進化するシステムを活用し、利用者の更なる利便性の強化を図るとともに、機械化できるところは機械化を図り、マンパワーは、レファレンスサービス(調べ物のお手伝い)等必要な部分に傾注していきたい。			
今後の課題・方向性	システム更新により、一層の利便性の向上や効率化を図ることで時間を創出し、相談業務、案内業務など利用者とのコミュニケーションの強化を図る。			

9. 学識経験者の所見

【中島廣光氏 評価結果】

評価コメント	地方都市での生活を充実したものにするためには図書館や美術館、博物館の内容を充実させ、かつ多くのイベントの開催が必要である。今回の取組で、図書館のサービスが向上し、市民が利用しやすいようになり、実際、多くの市民が利用するようになったことから、年齢を問わず多くの市民に有益であったものと判断できる。
--------	---

【石川真澄氏 評価結果】

評価コメント	新システムへの移行が円滑に進み、それによる省力化を他のサービスの改善に向ける方向性は評価される。また、よりアウトカムを意識した指標に見直されていることも事業のサイクルとして望ましい。
--------	---